

～介護する人・受ける人がともに大切にされる介護保険制度へ～

介護保険制度の抜本改善 介護従事者の処遇改善を求める 請願署名提出集会

提出署名数13万1301筆、紹介議員107人、292 意見書



集会は、27日12時から衆議院第1議員会館大会議室にて開催。会場には全国から140人が、ZOOM100人が参加しました。

☆国会議員挨拶、署名提出

国会開催中にもかかわらず、9人の議員が参加し激励の挨拶。また、メッセージは、10人の議員から寄せられました。署名を手渡し(左)記念撮影、その他、千葉、長野の参加者も、地元選出議員に手渡し、記念撮影。



☆連帯の挨拶を、障害者の立場から、21世紀・老人福祉の向上をめざす施設連絡会から、訪問介護の立場から。参加者に共感と連帯感を与えてくれました。

☆☆障害者の立場から 三浦さん、「付き添ってくれるヘルパーが見つかりにくくなり、外出しにくくなった。グループホームといえど、生活に必要な物の買い物が必要。友達との交流もしたい。1ヶ月前に依頼しても見つかりにくい。ヘルパーの人数も減っている。学生アルバイトも減っていて見つかりません。通院とリハビリの最低限しかヘルパーが頼めない。介護職の低賃金が原因だと思う。グループホームは2年の期限付き入居で、その後は一人暮らしをしないといけない。365日ヘルパーが必要なのに、見つからなければ生活が成り立たない。とても不安。報酬の大幅な引き上げをしてほしい」。

☆☆21老福連 井上さんは、「施設長も月4回、5回と夜勤に入らないと現場が回らない。相談員やケアマネも現場に入らないと人が足らず、新規の方の面接に行けない。基本報酬の引き上げは次の改定まで待てない。今すぐに必要。ヘルパー不足で、6割が受け入れを抑制している。新規の依頼があっても行くヘルパーがおらず、泣く泣く断っている。介護職の処遇改善は、利用者負担に響かない、全額国庫負担でまかなうべき」と発言。

☆☆ヘルパー 吉田さんより、「ヘルパーの平均賃金は、全産業平均より7万円低く、募集しても来ません。政府はテクノロジー活用や外国人労働者の雇用と言うが抜本的な解決にはならない。全国で死に場所難民が出る。高齢者の方は、私たちヘルパーの訪問を楽しみに待っています。国会議員の先生方、自転車をこいで、私たちと1日同行訪問してほしい。炎天下の移動、蒸し風呂状態の入浴介助はヘルパー夏の陣です。高齢者が、生きていてすみませんと謝る社会ではいけない。私たちヘルパーにも生活がある、家族がある、使命感だけで働くには限度がある」

等、参加者に共感を広げ、あらたな連帯を強めることができました。

☆介護保障の学習会 全日本民医連林事務局次長から情勢の学習を受けました。「介護保険をめぐる情勢と制度改善の課題」について30分のみに学習ですが、中身の濃い内容をわかりやすく学ぶことができました。(別途学習資料参照)

☆5.27 介護保険制度の抜本改善、介護従事者の処遇改善を求める請願署名提出集会 行動提起

1. 「介護の危機突破」へ職場と地域で介護改善大運動をすすめよう

- ① 訪問介護の基本報酬引き下げ撤回、低すぎる介護報酬の期中改定を求めて、引き続き自治体に国への意見書採択運動を呼びかけます。
- ② 国に対する運動とともに、自治体に対しては訪問介護や介護処遇改善などの独自支援策を要求していくことを呼びかけます。
- ③ 「介護保険制度の改革提言パンフレット」を活用し、全国各地で介護保険の改善に向けた学習運動を呼びかけます。

2. 第217回通常国会(1/24～6/22)最終盤のたたかい

- ① 本日、介護署名を提出し、この通常国会で請願採択をめざします。
- ② 野党提出の介護2法案(訪問介護緊急支援法案・介護障害福祉従事者処遇改善法案)の成立を迫ります。

3. 参議院選挙に向けたたたかい

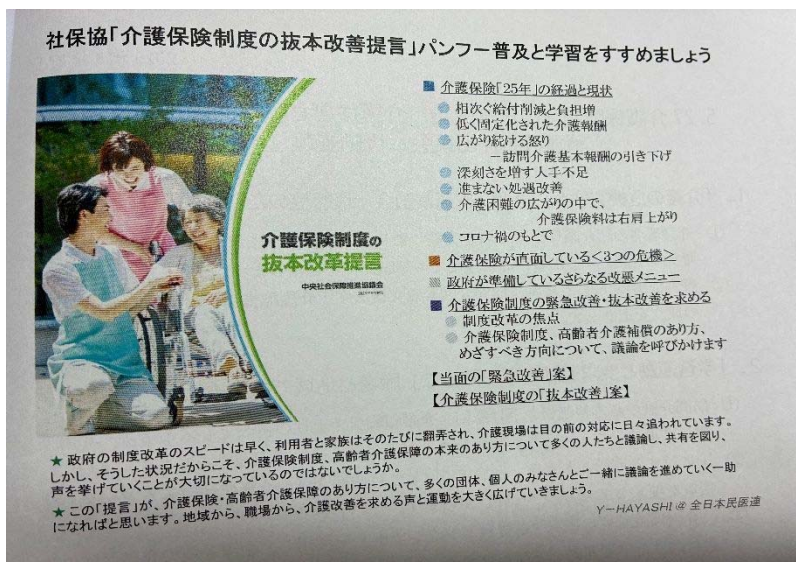
- ① 参議院選挙は7/3 公示・7/20 投票予定です。介護現場の実態・窮状をリアルや SNS で可視化し、介護の抜本改善を参議院選挙の争点に押し上げましょう。
- ② 焦点は2つ ①国庫負担割合の引き上げ ②介護従事者の処遇改善(全額公費)介護署名の請願項目に賛同する政党・候補者への投票行動を呼びかけます。
- ③ 介護保険制度の政党アンケートに取組みます。結果はホームページ等に公表しますので、職場や地域に知らせましょう。

4. 秋の臨時国会、年末に向けたたたかい

- ① 年末までに介護3大改悪(利用料2割負担の対象拡大・ケアプラン有料化・要介護1・2保険外し)を許さない構えを広げましょう。
- ② 新介護署名は参院選後に取り組みよう準備し、臨時国会での署名提出を目指します。(新介護署名オンライン決起集会を9月1日(月)18時～予定)
- ③ 全国で介護保険大改悪を許さない大規模宣伝に取り組むとともに、各地で介護改善運動の共同を広げることを呼びかけます。
- ④ 厚生労働省や介護保険部会など審議会に向けて、介護現場や利用者の声を届ける具体的な取り組みを検討します。以上



愛知から6名が参加。集会終了後、地元国会議員27人へ紹介議員要請を行ないました。国会開催中で有、秘書の対応になりましたが、「介護保険制度の抜本改善提言」パンフを紹介しながら、「介護の改善に尽力されたい」と訴えました。



↑ 集会学習資料から パンプの紹介1冊50円社協へ申し込みを

さらに、全労連介護ヘルパーネットの厚労省記者クラブでの記者会見に医労連の代表2名が参加。また、同日いのちのとりで生活保護裁判最高裁弁論があり、激励行動や傍聴、平衡して開催された参議院会館内での集会に3名が参加しました。

2025年5月27日・社保協介護署名の中央行動の報告

(by愛知民医連・吉田孫之)

☆請願署名提出集会の概要

(と き) 2025年5月27日(火) 12時～13時30分

(ところ) 国会・衆議院第一議員会館大会議室

(内 容) 集会には会場参加者140名、オンライン参加者100名、合計240名が参加し、介護現場の危機的状況と制度の抜本的改善を求める強い意思が示された。

集会までに全国で集まった署名は34万1301筆に及んだ。

訪問介護報酬切り下げ撤回と報酬引き上げを求める運動は大きく広がり、現在、292自治体の議会で請願が採択され、16県議会で意見書が提出されている。訪問介護の危機はメディアでも大きく取り上げられ、政府も無視できない状況になっている。

国会では、野党が提出した介護に関わる2つの緊急法案(介護事業所に対する緊急支援法案、従事者の処遇改善法案)が提出された。だが、法案はまだ審議されていない状況であり、早期の審議開始が求められている。

最後に、4つの柱の行動提起を受けて、引き続き運動を強めることを確認した。

1. 署名の紹介議員と当日の挨拶、来賓挨拶、現場からの実態報告

署名の紹介議員は当日までに107人(立憲68、共産19、れいわ7、社民3など)、このうち忙しい合間をぬって衆参7人の国会議員が挨拶を述べ、地元からの参加者から直接署名を受け取った。

また、三浦さん(三鷹市在住の障害者)、井上さん(21世紀老福連)から連帯挨拶。吉田さん(京都民医連のヘルパー)から現場の実態を告発する報告を受けた。

2. 介護保険制度をめぐる情勢学習

全日本民医連の林事務局次長より、スライドを使って情勢の報告があった。

介護保険制度は、1997年に制定され2000年にスタートした。その後、度重なる制度の改悪により、構造的欠陥は増幅され続けてきた。給付は削られ、利用者の負担は1割から2割、さらには3割負担へと引き上げられてきた。その結果、介護保険料を毎月きちんと支払っているにもかかわらず、必要な介護保険サービスが利用できない事態が生じている。2015年に元厚生労働省官僚が「国家的な詐欺になりつつある」と警鐘を鳴らしたが、今や「保険詐欺」という言えるほど深刻化している。

制度設計時の「介護の社会化」という願いとは裏腹に、利用料負担増などにより、再び家族が介護の主な担い手とならざるを得ない「介護の再家族化」が進行している。制度の「持続可能性」を確保するというスローガンのもと改悪が進められているが、これは一体誰のための、何のための持続可能性なのかが問われている。

現状を立て直すことが喫緊の課題であるにもかかわらず、政府は更なる制度改悪

を狙っている。3年前（2022年）に「市場最悪の改悪」として議論されたものの、運動や世論の力で先送りされた「3大改悪案」の審議がこれからスタートする。

3大改悪案とは、以下の3点。

①利用者負担の2割負担対象拡大、②ケアプランの有料化、③要介護1、2の生活援助サービス等の総合事業への移管

こうした改悪は徹底的な社会保障費の削減を狙う政府の方針「改革工程」（2023年12月閣議決定）に沿って進められている。

3.今後の4つの行動提起

社保協の林事務局長から次の4つの行動提起があった

1. 請願署名の提出と法案の審議促進: 本日集会後に集まった34万筆の署名を国会に提出し、今国会での請願採択を目指す。また、野党提出の介護に関する2つの法案の審議を強く求める。

2. 学習運動と要求運動の推進: 職場や地域で介護保険制度や現状についての学習運動を広げ、「学びを怒りに」変えながら要求運動を展開する。自治体に対しても現場の実態を届け、独自の支援（世田谷区のような補助金など）を求める働きかけを行う。介護保険制度の抜本改革パンフレットなどを活用し、年末、来年に向けた改悪阻止・改善実現の闘いを広げる。

3. 参議院選挙での争点化: 今夏の参議院選挙で、国庫負担割合の引き上げや介護従事者の処遇改善など、請願署名の項目実現を争点として押し上げ、制度改善に賛同する議員を多く当選させることを目指す。社保協が実施中の政党アンケート結果なども活用し、各政党に働きかける。

4. 介護改悪法案の阻止: 来年の通常国会に介護改悪法案を提出させないため、この秋の闘いが重要となる。年末までに3大改悪案を許さないという構えで運動を広げる。参議院選挙後には50万筆目標の新しい署名運動を開始（9月1日決起集会）し、秋の臨時国会には25万筆提出（11月予定）を目指す。11月には「なんでも介護相談」の実施、秋には全国各地での大規模宣伝などを呼びかける。

☆地元議員への要請行動

愛知からは社保協の小松事務局長をはじめ6人の代表が参加（社保協1、愛知民医連1、愛知医労連2、自治労連愛知県本部1、愛知県保険医協会1）、集会の後、3つのグループに分かれて、衆参の地元議員37人の議員室を訪問し、要請。紹介議員を引き受けていない議員には引き受けを2月に続いて再度依頼した。

現在、引き受けている議員は、立憲（大西健介、牧義夫、小山千帆、西川厚志、藤原規真）、共産（本村伸子、井上哲士）の7人。

愛知県医労連 2025春闘速報15

発行 2025.5.28 愛知県医労連・矢野書記長

連絡先 愛知県医療介護福祉労働組合連合会
☎052-883-6955 Mail: irouren@roren.net

介護署名34万1,301筆提出 すでに介護崩壊は始まっている

署名提出集会



5月27日、介護保険制度の抜本改善・介護従事者の処遇改善を求める請願署名の提出集会が衆議院会館で行われ、累計34万1,301筆の署名が提出されました。紹介議員は2人増え109人となりました。集会には会場140人、Web80人が参加しました。他産業の賃上げからも、介護現場は大きく取り残されています。訪問介護の報酬引き下げで事業所の倒産も過去最多。介護報酬の臨時改定を求めようと行動提起がありました。

障害者の立場から



「付き添ってくれるヘルパーが見つかりにくくなり外出しにくくなった。ヘルパーの人数も減っている。介護職の低賃金が原因だと思う。ヘルパーが見つからなければ生活が成り立たない。とても不安。」

ヘルパーより



「ヘルパーの平均賃金は全産業平均より7万円低く、募集しても来ません。全国で『死に場所難民』が出る。国会議員の先生方、自転車をこいで、私たちと1日同行訪問してほしい。炎天下の移動、蒸し風呂状態の入浴介助。私たちヘルパーにも生活がある、家族がある。使命感だけで働くには限度がある。」



34万1301筆

愛知から参加の皆さん

21・老福連より

「施設長も月4回、5回と夜勤に入らないと現場が回らない。相談員やケアマネも現場に入らないと人が足らず、新規の方の面接に行けない。」

全労連介護ヘルパーネット



医労連からは、愛知の名南会労組・榊原副委員長より「居宅のケアマネはこの間ずっと処遇改善でないがしろにされている。シャドウワークが問題となっているが、ケアプランにはないことをせざるをえない。入院中の荷物を取りに行く等何でかんでもケアマネにやれと言われる。」と訴えました。



名南会労組
榊原副委員長
(ケアマネ)

介護労働実態調査記者会見

同日、厚生労働省の記者クラブにて、全労連・介護ヘルパーネットの記者会見が行われ、介護現場で働く労働者6,353人からの調査結果を発表しました。「介護労働者はやりがいがあるのに続けられない。原因は①低賃金、②人手不足、③ハラスメント 介護職全体の平均賃金は月20万円、正規で24万9,585円 全産業平均は35万円と正職員で比べると11万円も差がある。」と全労連の土井厚生労働局長より報告がありました。

生協労連の方からは、「ヘルパーは給料が上がらず、スーパーのレジや、娘のアルバイトの時給の方が高くなってしまった。」、福祉保育からは「人員不足で入浴が週2回できない。高齢者を大切にできない現場ってどうなのか。まさしく今の日本は介護崩壊」と訴えがありました。



全労連・土井
厚生労働局長